

令和4年度第2回葉山町総合教育会議 会議録

- 1 開会年月日 令和5年1月18日(水)
- 2 開会場所 保育園・教育センター会議室
- 3 出席者 町長 山梨崇仁
教育長 稲垣一郎
教育長職務代理者 小峰みち子
教育委員 鈴木伸久
教育委員 下位勇一
教育委員 清水衣里
- 4 出席職員 教育部長 中川禎久
教育総務課長 虫賀和弘
学校教育課長兼教育研究所長 濱名恵美子
生涯学習課長 守谷悦輝
政策課長 佐野秋次郎
学校教育課指導主事 松本美穂
- 関係者 長柄小学校長 益田孝彦
地域学校協働活動推進員 水留純子
- 5 議長 町長 山梨崇仁
- 6 書記 教育部長 中川禎久
- 7 開会 午後2時00分
- 8 閉会 午後3時32分
- 9 協議事項 (1) これからの学校教育について
① 葉山町長柄地区コミュニティ・スクールの現況報告
② 新しい学びと学び舎 楽校づくり
(2) その他

(開会宣言)

教育部長) それでは、ただいまから令和4年度第2回葉山町総合教育会議を開会いたします。

時刻は14時です。

総合教育会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定により設置され、同条第3項の規定により、町長が招集することとなっ

ております。

また、本会議は地方公共団体の長と教育委員会という対等な執行機関同士の協議及び調整の場という位置づけであり、会議において調整がついた事項はそれぞれが尊重義務を負うものの、この場で決定を行うものではありません。また、地方公共団体の長の諮問に応じて審議を行う諮問機関でもないことを申し添えます。

それでは、総合教育会議設置要綱第4条の規定により、町長は会議を招集し、その会務を総理するとなっておりますので、これ以降の進行は山梨町長にお願いいたします。

町 長) 皆さんこんにちは。よろしくお願いいたします。それでは初めに傍聴人につきまして、本日お1人傍聴の方がいらっしゃることをご報告いたします。

それでは、お手元の協議次第をご確認ください。本日の次第は以上となっております。

(①葉山町長柄地区コミュニティスクールの現況報告)

町 長) それでは、こちらの、2、協議事項(1)これからの学校教育についてを議題といたします。

初めに、水留地域学校協働活動推進員、そして益田長柄小学校校長から、葉山町長柄地区コミュニティ・スクールの現状報告について説明をお願いしたいと思います。

それではよろしくお願いいたします。

地域学校協働活動推進員) よろしく申し上げます。皆様こんにちは。長柄地区の地域学校協働活動推進員の水留と申します。今日はこれからコミュニティ・スクールの立ち上げから現在の活動の状況までを報告させていただきたいと思っております。座らせていただきます。よろしくお願いいたします。

私は、今、コミュニティ・スクールの地域学校協働活動推進員をしています。コーディネーターとも言います。分かりにくい言葉がいろいろ出てくると思います。まずコミュニティ・スクールという言葉は、簡単にコミスク、あるいはCSとも言います。それから、私の立場である地域学校協働活動推進員は言葉が長いので、ご説明の中で推進員あるいはコーディネーターというふうにお話しするかもしれませんので、ご承知おきください。

本日は長柄地区コミュニティ・スクールの発足から現在までの活動の様子、また、推進員としての具体的な活動も紹介させていただきます。

まず、コミュニティ・スクールの発足に当たって、1つ目、準備など、それからどのように委員を選考したかについてお話しします。それから、2つ目、昨年度の、初年度の活動の様子をお話しします。3つ目、今年度、南郷中学校、長柄小学校が合同になって、学校運営協議会がさらに膨らみました。その活動について説明いたします。最後に今後の展望などをお話しいたします。

まず、コミュニティ・スクールのスタートに当たってですが、コミュニティ・スクールは学校と地域が一体となって特色ある学校づくりを進めるための有効な仕組みのことをコミュニティ・スクールと言います。そのコミュニティ・スクールの中には学校運営協議会を設置します。従来、学校評議員会であったものが、今は南郷地区も長柄地区もなくなって、その代わり学校運営協議会というものになっています。

学校運営協議会についてはまた説明いたしますが、この中の、私の地域学校協働活動推進員の立場というのが、地域と学校を結びつける位置、大体何かこんな感じの位置にあります。

そして、コミュニティ・スクールのスタートに当たって、発足時に竹原先生にいろいろご助言を頂きました。竹原先生は現在文部科学省CSマイスターでいらっしゃいます。このCSというのがコミュニティ・スクールのCSですね。コミュニティ・スクールの先進校である横浜市立東山田中学校コミュニティ・スクールの立ち上げに関わられました。

そして、南郷中学校のコミュニティ・スクールの発足に当たって、幾つかのご助言を頂きました。委員選出についてのご助言として、1つ目は、発足時はある程度人数を絞っておいて、新たに出会った人を加えられるような、そういう人数構成にしておくのがよい、ということでした。それからもう一つは、柔軟性を兼ね備えた、あるいは視野の広い委員を選出することが大事であるというご助言を頂きました。このご助言を受けて教育委員会と協力し、助言に沿った委員選定を進めました。

初年度に発足した南郷中学校学校運営協議会は、学識経験者、地域住民、ICT有識者、保護者などの8名、それから設置校、南郷中学校の校長、教頭、連携校、長柄小学校の校長、教頭の4名、合計12名の委員でスタートしました。学校活動に地域が協力したり、地域の声を学校運営に生かすことといても、実際の活動がどのようなものになるのか、手探り状態のスタートでした。6月にコミュニティ・スクール学習会で竹原先生のお話があり、学校内に誰もが集まりやすい場所をハード的に準備することが必要という内容がありました。そ

のを受けて、9月、南郷中学校の職員室の並びにある会議室の後方を片づけていただき、コミュニティルームとして設置していただきました。打合せのできるテーブル、作業用デスク、プリンター、棚、あとお茶を飲みながら会議もすることができます。現在コーディネーター（推進員）である私と矢地みどりさんの2人が推進員をやっていますが、在室する日程を決めて、打合せや作業を行っています。まだ本当に手探り状態の活動でした。

コミュニティルームの活用状況としては、私と矢地さんで、月に2回在室する日程を決め、この日に合わせて南郷中学、長柄小学校の校長先生が都合つくときには顔を出していただき、次の運営協議会の内容の打合せや、小・中一貫教育に関する打合せなどを行っています。

次に、昨年度の活動を紹介します。初年度の活動です。学校運営協議会は5回開催されました。学校運営協議会の会議では、学校の様子の紹介、推進員の活動紹介、それから、委員が自由な意見を積極的に発言できる場を設けています。また、竹原和泉氏の講演、それから妹尾氏の講演、11月30日には東山田中学校運営協議会の見学などを行いました。

第1回運営協議会の協議内容を紹介します。まず、ちょうどコロナ禍の中で、南郷中学校からは伝統の校歌斉唱に取り組めない、声を出すことになってしまうから。それから、南郷中学校独自の取組であるFGC活動にもなかなか取り組めないということが報告されました。そんな悩みをこの運営協議会で話し合っていくことに意味があるのではないかという発言があり、皆さん賛同されていた場面が印象的でした。また、翌年南郷中学と長柄小学校が合同運営協議会になるということで、経営方針の一致、それから学校教育目標の連携なども重要になるという話もこの場で取り上げられました。

そのほか、全児童・生徒に提供されたクロームブックの活用方法、あるいは南郷中学の自転車指導など、いろいろな情報提供や課題共有が行われました。

次に、6月に行われた竹原氏のコミュニティ・スクール学習説明会での質疑応答の一部を紹介します。

質問として、学校評議員会と運営協議会の違いは何でしょう。学校評議員会は学校の話の評議員さんに報告したりという形でしたが、学校運営協議会は学校の最大の応援団とも、辛口の友人とも言われ、学校と地域の人たちが話合いの場を設けることで、学校をよりよくしていくことができるというお話でした。

次に、運営協議会は誰がどんなことをすればいいのかをもっと知りたいという質問がありました。議論して承認に至った結果に対してみんなでやりましょ

うと動くのが運営協議会です。例えば、今まででしたら、一部の先生の決断によって、例えばこの行事はやめようとかという話になって、そういうことになってしまった場合に、非常に悪影響が起きることがありましたが、学校運営協議会が決定機関となり、決定を肩代わりすることで学校が健康体になっていく、そういう良いことがあるという説明がありました。

また、3つ目の質問として、運営協議会の委員会で意見の対立はないのでしょうかという質問がありました。これに関しては、みんなで考えて合意を引き出すということ、もちろんいろんなワークショップ形式で考えたりとか、みんなの意見を出すということで、対立というよりは、みんなの意見を反映するような場にできるでしょうと、そういうお話でした。

次に、昨年度の推進員としての活動ですが、昨年度は南郷中学校から1年生のFGC、2年生の職場体験の相談はありましたが、実際に活動には至らず、まだ昨年度は準備段階でした。

それでは次に、今年度の活動を紹介させていただきます。今年度からは南郷中学校、長柄小学校が合同学校運営協議会となりました。協議会に1名増員し、委員は全部で13名となりました。学校運営協議会の開催場所は南郷中学と長柄小学校、交互に行っており、現在まで4回開催しています。Zoomを用いた会議も行っています。また、運営協議会の内容として、南郷中学校、長柄小学校の学校の様子の紹介に加えて、今年度は総合的な学習の時間の在り方を軸に、小・中一貫に関する話題がありました。また、南郷中学校では生徒会の生徒さんによる生徒会活動の紹介がありました。あるいは、長柄小学校では、業務員さんの、実際の活動のお話とか、総括教諭による組織改編の報告もありました。また、情報発信のため、ホームページの作成の話題もありました。会議内容、多様になってきました。なお、ホームページの作成状況については後ほど簡単に説明させていただきます。あと、南郷中学、長柄小学校の合同研修会も3回開催されました。それから、南郷中学校区教育懇話会は、今まで南郷中学の主催だったものを、学校運営協議会主催で行うことになりました。

それでは、推進員の活動も簡単に紹介させていただきます。本年度は南郷中学校の先生からの依頼を受けて、まず1つ目、2年生の体験学習、この体験学習を行うための団体さんを探す依頼を受けました。もちろんまちづくり協会さんの登録団体から、あるいは新たにお電話して、新規に葉山ICEさんと、~~さん~~、「そっか」さんに依頼をしました。そして6月22日の実際の体験活動が終わった後は、お礼状の発送も推進員のほうで行いました。2年生の職場体験は、協

力団体には関わらなかったのですが、お礼状の発送は推進員が行いました。

次にお見せする写真が、これが葉山ICEさん、上山口の棚田のお米からアイスクリームを作っているという団体で、棚田を保存する目的で、棚田で取れたお米からアイスクリームを作り、その売上の一部をまた棚田の維持のためにフィードバックしているという活動をなさっています。2年生が行っているのは田んぼの草取りです。草取りが終わった後でアイスクリームをごちそうになって、一番いい思いをしたメンバーたちじゃないかと思います。次は景観まちづくり研究会葉山さんの団体の協力のもとに、2年生が逗葉新道沿いの整備を行いました。その様子です。それから現在、南郷中学校2年生が平和学習を行いたいということで、講師を探す依頼を受けています。

次に、長柄小学校との関わりとしては、今、長柄小学校で放課後サポート教室を行っていますが、その申込書の作成、応募者集計、保護者への通知書作成などの作業を徐々に引継ぎしている段階です。

次に、簡単にホームページの紹介をさせていただきます。昨年9月、ホームページ作成プロジェクトを立ち上げ、ICT有識者である田村さんを中心に、何度か打合せを行いました。12月にほぼホームページの骨格が見え、2月には公開する状況で進んでいます。どのような内容かと言いますと、まず、「コミュニティ・スクールとは」という内容のページ、それから、「お知らせ」のページ。この「お知らせ」には学校運営協議会の会議報告などを随時アップしていく予定です。そして、「お問合せ」のページです。コミュニティ・スクールへの相談、質問、意見、提案などを受け付けます。ホームページはこれからの運用によってよりよいものになっていくことが期待されます。また、情報発信とともに、情報収集の手段にもなり得ると思います。

最後に、今後のコミュニティ・スクールの展望をお話しします。まず1つ目、ホームページの運用です。ホームページはニーズに合わせてどんどん変更していく予定です。また、情報発信ツールとしてコミスクから発信します。また、地域からも発信できるようになると、これから地域としても利用できる有用なツールになることと思われまます。

2つ目です。人材や団体の登録や発掘、小・中学校の総合学習や活動に協力していただける人材・団体を広く発掘したり、登録する活動を進めます。既存のまちづくり協会や社会福祉協議会の人材・組織活用はもちろん、新たに立ち上がろうとしている学校への人材紹介組織の活用も行っていく予定です。そこで、学校側へ円滑に接続できればと思っています。

最後に3つ目です。小・中一貫校に向けての取組です。小・中一貫に向けて今後研究や教職員の交流が広がることが期待されます。ここについてはこの後益田先生が補足してくださいます。準備が円滑に進むよう、意識していきたいと思っています。

学校運営協議会は生徒さん、教職員さん、地域の方のお話をお聞きしたり、ざっくばらんなブレストタイムの話の中から、困り事や問題点を見つけて協議し、よりよい学校や地域を目指せる場にできればと思います。そして、広く、深く、いろいろな力や可能性を持った子どもたちを育てることが私たちコミュニティ・スクールの今後の進む方向になることと思います。

以上、南郷中学校、長柄小学校コミュニティ・スクールの発足から現在までの活動の様子、今後の展望を推進員の視点で紹介させていただきました。ありがとうございました。

長柄小学校長) では、続きまして、長柄小学校校長の益田です。どうぞよろしくお願ひします。

まず最初に、コミュニティ・スクールを推進している校長として、願ひがあるということをお話したいと思っています。それは、地域が最大の応援団になるというコミスクの仕組みを使って、そして令和7年度から始まる分離型の小・中一貫校の学びの連続性を生かして、個に応じた資質・能力を伸ばすことによって、できれば公立小・中学校のレベルを超えた、優れた人材を、長柄地区や葉山町から出していきたいなという、そういった願ひで、森岡校長とよく話をしているところなので、それをお伝えします。

そんな中で、コミスクのことをちょっと学校の立場から補足させていただくと、何点か、もう少し魅力があるところのお話もできるかと思っています。それは、管理職なり教職員の異動というものが起こると、学校って今までだと、それまでのやっていたことが切れちゃうようなものがあつたと思うのですが、コミスクをやっていると、その地域との連携関係が崩れるわけではないので、持続可能な仕組みを取り入れているという形で、人によらないという、学校の強みが出てくるのがまず一つの大きな特色です。

そして、校長が作成するような経営案とかを策定する、承認するということを通して、非常に委員さんたちが当事者意識を持って臨んでくれます。そのおかげで、仕事の分担とか組織化を図るとかも、その委員の中で図れるようになって、有機的な動きをしてくれるのも事実です。また、子どもたちの育て方について、地域全体とそのイメージを共有できるという点でも強みのあるのがコミスクではないかなと考えています。

これを立場別で話をすれば、児童・生徒や教職員にとっては、まず、結構地域の方が肩代わりしてくれる部分が出てくるので、子どもたちと向き合う時間が増えるという最大の強みがあります。そして、また、例えば地域指導者などをどんどん投入してくれることによって、今まで考えていた以上に子どもたちに提供できる教育の質が向上するというような利点があるというふうに考えています。

保護者の立場で言えば、地域に仲間ができてやすくなるということも、もちろんありますが、子どもを育てるに当たって、地域に守られているなという感覚を持って子育てに当たられているというのは一つの魅力ではないかなというふうに思うところです。

そして何よりも地域の方々にとっては、このコミスクが生きがいになったり、自己有用感を持てるような場になるったりするところがあるところが一つの大きな強みで、具体には防犯や防災の連携組織、つまり地域のネットワークを築けることができ、学校が本当に地域のよりどころになっていくという部分で優れた仕組みであると思いますので、推進していく価値はあるなというふうに考えているところです。

でも、今私が説明したことは、大体文科が説明しているような文章と同じ部分なので、せっかくなので葉山町のことを1つだけお話しすれば、長柄地区で言えば、古墳があったり、御霊神社があったりとか、そして森戸川があって、山があるという環境がある。それを生かしたいと考えている人たちがいる。これらを持続的に、何ていうのかな、活用できるとか、保存できるようなことを願う人たちがいるという中で、そういった思いを担っていくのは、今後は恐らく学校が一番大きな担い手の養成機関になると思うんです。

私、葉山町のことを考えると、森戸神社の祭礼とか、先ほど実際に南郷中の活動例で出てきたように、上山口の棚田など、どうやって維持していくのかという部分に関して、やっぱり子どもたちが探求的な学習を通して興味・関心を抱いて、自分の選択力の中でその後継者に手を挙げていくというような時代がやってくるのではないかなと思うので、そういった資源が一番多そうなこの葉山町においては、コミスクというのはすごく大事な鍵を握っていくのではないかなと考えているところです。

最後に私が補足するとしたら、先ほど小中一貫の試みというところもありましたので、来年度にはどういうふうに考えていくかという4つのポイントをお伝えします。1つ目はとにかく探求的な学習が各学校で進むように、より、何

ていうのですかね、そのバックアップをしていかななくちゃいけない。本当に先生方の授業が変わらなくちゃいけないだろうなというふうに考えているところなので、そこに責任を持ちたいと思っていますところです。

2点目は、その具体化にもちょっとつながりますが、南郷中と校内研究という場がありますけど、各校でやってた校内研究を来年は7回ほどスケジュールを合わせて、お互いの学校を行き来しながら、全員の先生と一緒に考えていこうというような仕組みを、今、構築し始めています。その理解も先生方の中に広まっていて、ああ、これこそ一貫教育の走りというか、その核になるような部分が始まるというような気がしているところです。

それと、地域人材をこうやって見つけてくださるといふところがあるのだけど、今以上にそういった作業を通して、地域の情報を学校が入手できるようにしたいと思っています。先ほどホームページで地域が発信できないかというところは、まさに思いが一緒のところ、地域をもっともっと私たち学校が理解していくような、つながりが深い1年になるようにしていきたいなと思っています。

最後に心がけているのは、この仕組みが、今、葉山地区でも始まろうとしていますので、私たち長柄とか南郷でやってる試みがすぐに葉山地区のほうでもなるべく取り入れてもらえるように、例えば先ほど言ったホームページなんていうのは、すぐにまねできるように作っている状況にあります。そういったことを意識しながら活動を進めていって、先ほど言ったコミスクの軸と小・中一貫の軸を大事にしながら活動していきたいなと思っていますところです。

私の補足説明は以上です。ありがとうございました。

町長) ありがとうございます。以上で水留協働員と益田校長の説明が終わりました。皆様からご質問等いかがでしょうか。下位委員、お願いいたします。

下位委員) ご説明ありがとうございます。今、南郷中、長柄小学校地区のコミュニティ・スクールですけども、ざっとメンバーはどんな方がいらっしゃるのか。全部の方は必要ないので、どういうベースの方がいらっしゃるのか、教えていただいでいいでしょうか。

長柄小学校長) 学識経験者と、さっき言ったITに堪能な方も入っていただいていたりと、学識経験者の別のパターンの方も加えている。そして地域活動推進員が2名、そして、PTAの関係で、長柄小1名、南郷中1名。あと1名地域全体をまとめる会長がいるというふうな形で、スタートは8名、それに校長、教頭、校長、教頭がいます。

下位委員) ありがとうございます。

町長) いかがでしょうか。お願いします。

小峰委員) 先ほど第1回運営協議会の協議内容ということで、南郷中から、コロナ禍では伝統の校歌斉唱に取り組めない等の話がありましたけれども、それが具体的にどんなふうな話し合いになっていたのか、もうちょっと具体的に分かるようでしたらお話しいただきたいんですけども。その下の経営方針、南郷中学校と長柄小学校の経営方針の一致や学校教育目標の連携も重要だということについて、参加された方たちからどのような意見が出てくるのか。その辺り、別にこの会に限らなくてもいいんですけども、もうちょっと、皆さんからどのような話が出てきて話し合いが進んでいくのかということをお話いただけたらと思います。

地域学校協働活動推進員) ちょうど昨年度はコロナ禍でもありましたので、実際歌えないとか、そういう制限があったので、南郷中の伝統的な校歌斉唱、しっかり大きな声で校歌を斉唱なさるんですね。ちょっと私、聞いたことなかったんですけど。それに組み込むことができない、歌が歌えないということで。それから、FGC活動についても、やっぱり協力団体さんが、コロナということで協力できなかったりとか、学校側からも逆にちょっとできないんじゃないかということで、活動自体をやめたりとかしたような状況だったんです、昨年度は。それを何とかできない状況ではありましたが、そういう話題が実際に第1回目の運営協議会で出ました。

長柄小学校長) 私から補足すれば、マインドとしては応援したい。だから、どこかに抜け道はあるのではないのか、そんな簡単に諦めなくて。結果的には、南郷中では、校庭で、生徒総会みたいなところで、大きな声で歌うとかね、たしかそんな話を校長がされてましたから、どこかに解決策があるのではないだろうかということのアイデアを出そうというような姿勢が生まれていくような、その最大の応援団というような雰囲気があるのがコミスクの特徴じゃないかなとは思っています。

小峰委員) 最大の応援団ということで、どんなふうに応援して下さるのか、何かに向けて地域の方や、運営協議会のメンバーの方がどんなふうにお話をしてくださったのかが伺いたいと思ったので、益田校長先生のお話でおおよそ分かりました。

それからもう一つは、このコミュニティ・スクールについて、保護者の方とか生徒たちはどんなふうに関心しているのか、その辺をお話いただけたらと思います。

長柄小学校長) まだまだ浸透は足りないとは思っていますが、やってることを分かりやすく、とにかく発信することが一番大事かなとか、思っている部分の一つでも知ってもらいたいのと、来年の話でちょっとお話をしましたけど、その地区の人たちの中

で何か載せたいことありませんかみたいなことを私自身聞きに行く必要があると思っています。そうやって、地域の方が、こんなことをやってくれるというふうに考えるのを引き出すというふうなことを通して広がっていくというのが大事なんじゃないかなと思っています。当面、一番知ってもらう手段としては、今は学校だよりの地域版ということになっていると思います。

小峰委員) すみません、何回もの質問になりますが、子どもたちはこういったコミュニティ・スクールとかその運営協議会が、いろいろな人が集まって話をしていることで、何か、あれ、前よりも地域の人たちがたくさん出入りしているなどか、自分たちが地域に出ていったら、何かこういうメリットがあったよとかという、そういう実感というのはあるのでしょうか。

長柄小学校長) まだそこまで行ききれてはいないような気がしています。そこまで成熟していないとか、始まったばかりのところか。

小峰委員) まだまだ、大人たちが動いている段階で、準備をしている段階ということですよ。

長柄小学校長) そうですね。

小峰委員) 分かりました。

長柄小学校長) ただ、現実には、例えば運営協議会が肩代わりした例で、長柄で始まったのは、午後までやってた運動会はもう時代にそぐわないだろうという部分を、結局最終的に支援して決定していただいたのは運営協議会で、午前型になったというのは大きな肩代わりで、それが実はそうやって運営協議会が絡んでいたというのを、子どもたちはまだ直接的には知らないかもしれないかもしれませんが、だんだん分かっていく仕組みができていくんじゃないかなと思っています。

町長) では、よろしいでしょうか。清水さん、お願いします。

清水委員) コミュニティルームは月に1回という発表を頂きましたが、長柄小の校長先生、先生たち以外の方が自由に入出入りする場ではないのでしょうか。コミュニティルームはどんな方が、どういうふうに、もしくは、今後こういう方にも参加してほしいとか、このルームの活用の現状と目標みたいなのがあれば、ぜひ教えていただければなど。

地域学校協働活動推進員) 現状は一応月に2日開くことにしてまして、その日に合わせて校長先生とか来てくださって、いろいろお話をしたり、協議したりするんですが、基本的にはどなたでも、地域の方でも来ていただいていい場所ですよというふうにするのが理想ではないかと思うんですが。南郷中学では通りがかりの教職員の方が、こういうことをお願いしたいって、何回か来てくださったこともありますし、あと子ど

もたちがのぞけるように、もうドアはいつも開けています。今のところ。そういう感じで、オープンな感じになればいいかなと。先進校の東山田中学校では本当に地域の方も学校もオープンで入れるようなスペースになっていまして、ちょっとハード的にすごいものを造るのは今のところ難しいとは思いますが、誰でもという部屋を理想としています。

長柄小学校長) そうですね、理想はそうです。東山田なんていうのは、野菜なんかも売っておられて。コミュニティルームで、そのぐらいの活動で、常時訪れる人が出るぐらいの場所になってますので、それは本当に、皆さんに受け入れられている場所だというふうに存じております。

清水委員) ありがとうございます。

(②新しい学びと学び舎 楽校づくり)

町長) それでは、次第の次に移りたいと思います。

協議事項の2つ目になります。虫賀教育総務課長から、新しい学びと学び舎楽校づくりについてご説明があります。よろしく願いいたします。

教育総務課長) では、私から今後の学校施設の再整備について説明をさせていただきたいと思えます。

給食センター事業がなかなか進まない状況の中、今年4月からは上山口小学校を使って暫定方式がスタートするわけですが、センター化の問題が完全に解決したわけではないので、施設系の話をするときはまずは給食の問題を解決してからというご指摘もあるかと思えます。ただ、一方では、やはり学校6校全て老朽化が進んでおりまして、こちらも待たなしの状況だということがあります。大変難しい問題ではあると思えますが、教育総務としては給食施設の問題、それから学校施設の問題、こうした施設全体の問題について今後の見通しをしっかりと立てていきたいと思えます。

町全体としては令和7年1月に公共施設の再整備の方針を改めて掲げることを目標にしています。全庁的にそうした取組が進む中、教育委員会としても学校施設についてしっかりと見通しを立て、町や町民の皆さんに認めていただけるような方向性を示していきたいというふうに思っています。今日は最初に全体の今後の取組の流れについてお話をさせていただき、その後少し細かいお話をさせていただければと思えます。

取組の流れとしましては、令和5年度から、今、水留さんや益田さんから紹介がありました学校運営協議会、こちらを中心に、まずは皆さんがどういう学

校施設を造っていききたいのか、そういう夢を語っていただきたいと思っています。今現在、令和4年も、令和5年の準備として、PTAの役員の会議にお邪魔して、保護者の皆さんがどういったところに関心があるのか、あるいは検討のプロセスとしてどんなことを期待されているのか、そうしたヒントや情報を集めるような活動をしています。そうしたものを生かしながら、令和5年度は今申し上げたような学校運営協議会での協議を進めたいと思います。令和4年度のヒントの中には、ぜひ子どもの意見も聞いてくださいというようなお話がありました。なので、教育委員会としては、夢を語る段階では子どもたちにも参加していただいて、学校にも相談しながらですが、ワークショップのようなものを開いていきたいというふうに思っています。

それから、学校運営協議会の協議や子どもワークショップなどの進捗に応じて、年度後半にはなると思いますが、学校施設の在り方検討委員会、有識者を中心とした町全体の学校の在り方を考えるような検討組織を設け、検討を深化させたいと思います。町には公共施設全体を考える附属機関がありますが、そちらは例えば教育施策と、子ども・子育ての施策の関係がどうあるべきか、地域コミュニティとの関係はどうか、財政のバランスなど、施設に係る取組全体をコントロールするようになると思いますが、我々が設置する会議の中では、これからの学びをどう進めるか、それに適した学校施設はどうあるべきかということを中心に議論を進めたいと考えております。

令和6年度、この段階では夢を方針に変換する活動をしていきたいというふうに思っています。なかなかこの夢を方針に転換する作業、難しいかもしれませんが、ここの方針がしっかり固まることによって、令和7年度以降、様々な困難があっても乗り越えられると考えます。施設系の取組ですので、候補地の問題もありますし、それから財政の問題も大きいと思います。様々な困難が令和7年度以降具体では入ってくると思いますが、例えばこの令和6年度のときに、先ほど益田さんが語ってくださったような小・中一貫の学校をつくっていくんだ、それは施設一体が望ましいんだという方針が立てられれば、その方針より後には戻って議論が行われない、我々が何度もぶつかる困難がその方針をベースに前へ前へと進められるようになると考えております。ただし、今から2年という厳しい状況もあるので、どこまでその方針が具体的に実現性の高いものとしてお示しできるか、ここは議論の進捗を見て判断しなければいけないところもあります。令和4年は、保護者の皆さんと協議を進めたので、比較的合意しやすいというか、教育の内実を高めてほしいというスタンスが強かった

です。でも、そういう協議を、例えば地域ベースでお話しすると、コミュニティ機能や防災機能が重視されたり、世代や地域の差も生じやすくなったりするのではないかと感じております。

この後のスライドでは、令和5年のスタートに当たる学校運営協議会で少しご紹介しようと思っているスライドを中心に説明させていただければと思います。なので、最初は施設の話というより、これからの時代の子どもたちが生きる時代はどんな社会だろう、そういう時代に必要な教育とはどんな教育だろう、それに向かって教育委員会や学校は、どんな取組を進めるべきなのか、とどちらかという教育の内実に軸足を置いたような話を中心にさせてもらって、施設の話は少し最後に今後こういうことを検討していきたいですというふうな組立てにしています。どうしても施設老朽化ベースにお話ししますと、統廃合するのかとか、我が地域の学校をなくすのかとか、そういう話になりがちなので、まずは教育委員会とすれば、こういう教育をしたいという話を前面に出して話を展開できればというのを理想にしています。なので、ちょっと前半施設の話から少しずれたような話が多いかもしれませんが、ご容赦頂ければと思います。

まず、子どもたちが生きる時代です。キーワードは、町長も議会などで使われているシュリンク、それからVUCA、この2つが大きいキーワードになってくると思います。

皆さんには少しいろんな事例を紹介していこうと思っています。まずは人口です。この人口に関しては、どうしてもシュリンク、減少の傾向にあるというふうに言わざるを得ません。これ日本全体の人口ですが、1億2,000万強の人口が2060年には8,000万近くになる。今日いらっしゃる皆さんは当たり前かもしれませんが、保護者の方々にもこういう情報を少しずつ紹介できればというふうに思っています。

これが葉山町の人口のこれまでの推移と今後の見通しです。やはり注目すべきは、葉山の特徴で言うと、ここの…ちょっと見づらいですかね。1960年ぐらいまで、この水色が堀内なんですけど、やっぱり葉山の中心はこの辺りの人口ベースで、堀内が圧倒的です。この堀内が圧倒的に多かった時期から、1970年代、80年代と、堀内を長柄が1985年に人口で上回り、その後、1991年には一色が堀内を上回る、この間、葉山ではほとんどの学校が建設されています。こういう特徴なんかもしお話ししながら、ここから老朽化してきたんだ。あとはこの時期、人口が急増しています。人口急増期の学校はすべて山の上にあります。葉山中学校、長柄小学校、南郷中学校。こういう立地上の問題なんかもし少しご

紹介しながらお話ができればなというふうに思っています。

それから、これは世界の時価総額の変化です。あまり学校教育の現場で経済の話ばかりするのはよくないのかもしれませんが、1989年、時価総額ランキング20位中14社が日本の企業。今現在、2022年では20社中0社です。唯一入っているのがトヨタ自動車で31位ですね。50社中1社しか入っていない。こういう状況が世界から見ると起きている。

それから、この辺は同じような話かもしれませんが、日本の人材競争力、これ結構経産省の未来人材ビジョンなんかで文科と一緒にあって、こういう人材をみたいな資料をたくさん出してきています。その中でも日本の競争力が下がっているというようなデータが出ています。

それから、賃金関係ですね。賃金関係は最近民放なんかでも、オーストラリアに行くとアルバイト感覚でものすごくお金が稼げるとか、日本の賃金が低いみたいな情報がいろいろなメディアでも紹介されていますが、やっぱり明らかに上がっていないという状況があります。

それから、VUCAというところでは、例えばSDGsであっても、リーマンショックや感染症であっても、明らかにグローバルに動いているということがデータから読み取れます。

それから、地球温暖化なんかもそうですね。それから、Society5.0、こういう時代になってくるというのもVUCAの一つだと思います。

それから、必要とされる能力、これも経産省の資料ですね。2015年あたり、必要な人材というのが、注意深さやミスが少ない、責任感がある、真面目さというところから、2050年では自らきちんと問題を発見し、把握する力であるとか、的確な予測の力とか、必要な能力の内容が大きく変わるといふふうに言われています。こういった時代がこれからの時代を生きる子どもたちの中では起きます。では、こういう時代ではどういうスキル・能力が必要なんだろう、みたいな話を保護者の皆さんにも少し紹介したいなというふうに思っています。

これはOECDが出している2030年において子どもたちに求められる資質・能力に関する教育のプロジェクトの資料を少し教育委員会でアレンジしたものです。見ていただきたいのが、ここの3つの赤く白文字で抜いてあるところです。これ日本の教育でもこういう能力が必要だと言われているところで、まず1つ目が、新たな価値を創造する力。私たち行政職でもそうなんです、そういう新しい価値を創造するのに、問題を的確に抽出ができているかどうか、そういう問題に対して的確な方向や課題が設定できているかどうか、それから

解決策が適切に提案できるかとか、そういった判断力や思考力、批判的思考だとかというものがちゃんと能力として備わっているかというところが大きく求められています。

それから、左下の責任ある行動を取る。やはり自律をできるかどうか、そういうところ、学び方にしても行動にしてもですね、自律ができていくかどうか、他者に依存していないかというのが非常に大事になってくる。

それから午前中の教育委員会でも今日たまたま話題になっていましたが、対立やジレンマに対処する力ですね。きちんとした対話ができるか。この後少し紹介する、これが今現在の葉山町の6校の学校教育目標なんですけど、この中で少し目立つワードとして、細かく小さい字まで読んでいくと、今のOECDが掲げるような目標とそんなに大きくずれているわけではないです。ただ、少し怪しいなと思うのが、例えばこの葉山小の仲よくする子というところ。多様性を認め合うとかという話も書いてあるんですけど、どうも、何ていうか、仲よければいい。例えば世の中の問題解決するのに必ず対話は必要なんですけど、どうしても対話すると子ども同士もめてしまうケースなんかあるときに、対話よりもそれを回避してしまう傾向があります。仲よくが優先されすぎて対立やジレンマに弱くなってしまっているように感じています。いつも教育委員会で鈴木委員が言われるように、子どもが鍛えられる時間というのがおのずとこうなってきたら。少なくなっているようなところも、教育目標、最上位の目標の中に少し怪しい言葉が交ざっている。言葉の解釈を説明すれば、いや、そんなことないよという話もあると思いますが、どうしても表に出る太い字を見て誤解をされる方々もやっぱりいらっしゃると思うんですね。一色小の「仲間とともに」というのも、決して悪い言葉ではないんですが、解釈によって同調圧力のように誤解される恐れがあると思います。そういう部分では、今の学校目標、最上位目標と、先ほどのOECDのキーコンピテンシーを照らし合わせて、この辺も町としては見直していく必要があるのかなというところを思っています。

それから、学びの関係で言うと、知識の習得と、探求力の鍛錬を経産省なんかでは分けて捉えています。知識の習得では、GIGAのデジタルドリル等を駆使するところによって、探求力とか課題解決型の学習のために時間を割くことができることを提唱しています。この辺に関しては、デジタルドリルを使って知識を蓄積することに抵抗がある方もいらっしゃると思いますが、こういう考え方も一つの流れだと思います。

それから、前半の資料と我々の教育の話が関連するところで言うと、今の話

がこの雇用だとか労働とか教育まで、子どもたちに必要なスキル・能力みたいな話と、我々社会人として身につけるべきスキル・能力というのがほぼほぼ重なっていると思います。最近の学校教育の資料をみていると、役場の仕事をしながらでもこういう能力が確かに足りないな、そういう批判的思考力を持ってちゃんと行政課題が見てられるかとか、そういうところが子供の学びの変化につながっていると痛感しております。

それから、これは日本財団の18歳意識調査の資料ですかね。やはり日本人全体として、例えばこの「自分は責任ある社会の一員だと思うか」という設問に対して、これはアメリカ、イギリス、中国、韓国、インド、日本の6か国を対象にした調査ですが、全て6位ですね。やはりほかの国々と比べると、「自分を大人だと思うか」という話に対しても、日本は27%、イギリス、アメリカだと85%あるような設問です。

学状に関しては、午前中、少し教育委員会の中ではお話が出たので、あまり詳しくはお話する必要はないのかもしれませんが、この辺りの設問でも、この8番は全国的に低い設問ですが、もしかしたらこれは、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがあるか」、この設問自体が小・中学生には難し過ぎて回答率が低いという可能性もありますが、18歳意識調査と同じような傾向が見受けられます。

あと、全体に言えることが、小学生のときは比較的肯定感が強い回答が多いのに、全国的に見て、中学校になるとそういう回答が下がってしまう。これはやっぱり9年間の系統的な学びで、ぜひ小学生のときに持っていた意識を中学生になっても、さらには社会人になって持てるよう、どういう施策をすべきか、教育委員会、学校で考えたいと思っています。

ここからが教育委員会としてどんな取組をしていくかという話を少ししたいと思います。これはスクールミッションポリシーと言って、簡単に言えば新しい学校教育目標を立て直したいと思っています。今、大学、高校までですかね。高校までこのスクールポリシー、方針というものを立てるとというのが制度的に位置づけられています。今後義務教育の段階の学校にもそういうものを求めてくるだろうというふうに言われています。

この中では、どういう子どもを育てていくのかをしっかりとポリシーとして示していく。義務教育9年間を学んだ後には、どういう子どもが卒業していくかもポリシーとして示していきたい。多分、この辺りのポリシーを明確に示すことで、保護者と一緒に、地域の皆さんと一緒に学校教育というのができると思

っています。

実際は令和7年1月ぐらいまでにこういうポリシーができて、先ほどの小・中一貫校、施設分離型の学校をスタートするときには、保護者の皆さんにスクールポリシーをお示しすることを目指したいと思っています

これはもう少し具体的な例として、これは今度の3月に教育委員会で予定しているシンポジウムの講師としてお招きした工藤先生、横浜創英中学・高等学校のスクールポリシー的な部分を抜き出しています。横浜創英の3つのキーコンピテンシーになっているのが、先ほどのOECDと近いですが、自律・創造・対話ですね。このジレンマや対立に対処する力の中でも、対話というキーワードを抜き出しているところが横浜創英らしさかなというふうに思います。

それから、この後、少し益田校長にもお時間あれば紹介していただきたいんですが、現状、例えば長柄小学校でも新しい価値を創造する力を、今までは「共生」と呼んでいたものを「創造」に変えていこうとか、対立やジレンマを克服する力も、「しなやかな心」ということを掲げたらどうだろうとか、責任ある行動も横浜創英と近いかもしれませんが、「自律」ということを掲げ、それぞれを育むためのスキルに関してこれから検討していこうというふうな状況にあるというふうに伺っています。なので、かなり6校の中でも進んでいる学校は世界的な流れを捉えながら、一步先の行動をできているというふうに思います。

それから、そういうことを具体でやっていくときに、先ほど水留さんから紹介のあったコミュニティ・スクールですね。こことはぜひいろいろな形で力を合わせて、最大の応援団として、辛口の友人としてお付き合いができればなと思っています。今はどちらかというところ協働推進員の方やコミュニティ・スクールの皆さんと教育委員会が協議する機会は多くありませんが、教育委員会としても町全体の教育の課題について、この場を使わせていただいて協議ができるようお願いができればありがたいなと思っています。

ここから、ここから先は少し施設の話になって、資料のボリュームが少なすぎるかもしれませんが、これは文科が出した、新しい時代の学びを実現するための在り方に関する報告です。5つの項目を出しています。今後はこの項目を参考に町も議論を進めたいと思います。

1点目が、個別最適で協働的な学びをする施設はどうあるべきか。2点目が生活です。例えば、具体で言えばトイレだったり、学校の机のサイズなんかが大きく変わったりもしています。GIGAスクールで端末を机に置くと、今の

J I S規格なんていうのが60センチの90センチぐらいですか。それが1メートルの70センチぐらい、サイズが新J I Sなんかも変わっています。ただ、教室が8×8メートルというのもあって、大きな机が置けない事情もありますが、新しい生活様式を考えると、そういう備品類も含めて考え直す必要があると思います。

それから共生ですね。さっきお話ししたような、例えば放課後の子どもの居場所としては学校敷地内に学童があることが望ましいという保護者のニーズがあったり、国の政策があったりもします。そういう共生できるものは何だろうみたいな話も今後議論が必要です。

それから安全ですね。昨日、町の中でも防災訓練がありましたが、学校は避難所にもなっています。この避難所をどのように運営していくか、地域の安全を守るとりでとして、施設としてどうあるべきか、こういう観点の議論も必要だろうと思います。

それから、環境ですね。環境に関してはゼロカーボン、カーボンニュートラルとして私たちも自然由来のエネルギーに転換していく、こういうことが求められています。2030年の目標として、46%のCO2削減というのがありますので、今後環境部などとも相談しながら、取組を進める必要があります。具体的には教育施設、この建物ですね。この建物の屋上の防水工事を来年計画していて、その後、ソーラーパネルを設置するような準備を環境部とも相談しています。学校施設に関しては再整備の見通しを立ててからということになると思います。

これは文科がまとめた新しい時代のスライドなどで、こういうものは保護者の皆さんにも積極的に紹介したいなと思います。

それから、少しだけ保護者の皆さんにも課題といいますか、厳しいお話もさせていただければ。1つは、人口全体でお話ししましたが、児童・生徒数もやっぱり大きく減少していくことです。さっきの対立やジレンマとか、いろいろな教育を考えると、学校は一定の規模がある必要があると思います。文科の基準で言うと、標準の学級数が12から18学級です。そういう意味では、上山口小学校は1クラス20人程度なので、クラス替えができないとか、1学年に複数の担任が置けないとかという問題を抱えています。南郷中学校も、中学校なので教科担任制ですが、9学級しかないという点では、文科の基準からは外れている。一定の規模を守りながら、どう学校を充実させていくか、そういうところの話もする必要がある。それから、堀内と長柄地区の問題で言うと、葉山マリーナから永楽家さんぐらいまでの堀内のエリアが、葉山小学校に通いながら

南郷中学校に通学をされる。この学区のねじれを小・中一貫の教育というときにどう課題を設定し、解決していくかというのがあるかなと思います。

それから、施設の再整備にかかるお金の問題ですね。ここにある数字は若干正確でない部分もありますが。いずれにしても、今まで持っている公共施設、学校を全部今までどおり直すというのは、どうもお金の観点からは厳しそうだな。これをどうクリアしていくかというところがありますというお話をせざるを得ないと思います。

最後になりますが、今年、令和4年度スクールミーティングが4校で終わっています。葉山小学校から始まって、昨日長柄小学校でやらせていただき様々な意見が出ています。

この色分けは先ほどの国の5項目ですね、学び、生活、共生、安全、環境の色分けをしています。学びが多かったのは、やっぱり学びの内実というよりは、葉山小学校はさっきの堀内からも南郷中に行く、葉山小学校の保護者でありながら、南郷中の保護者でもあるという方がたまたま多かったせいか、通学の話が多かったです。スクールバスが欲しいとか、長柄の横断歩道橋のそばに自転車を置きたいとか、そんな話が結構多かったです。

それから、共生のところでは、ワークスペース、例えば低学年の子どもと一緒に学校に行って、そこでそのまま少し働けたらいいな、そういうスペースが、コミュニティ・スクールのその発想と近いかもしれませんが、あったらいいなとか、そんな話がありました。

安全面では、意外に多かったのはセキュリティーみたいな話ですね。学校に私たち保護者も容易に入れてしまう。もう少し学校のセキュリティーが必要なんじゃないか。確かに最新の新しい学校なんかを見に行くと、やっぱり警備室が入り口にあって、ちゃんとした名札もつけないと入れないみたいな形になっています。

意見として少なかったのは、環境系の話とか、それから生活様式の話は比較的少ない。ただし今回は、こういうテーマで意見をくださいというふうにお話ししていないので、今後は少しずつテーマを絞って、それぞれ夢を語っていただいて、その夢をしっかりとまとめていきたいなと思っています。

先ほど申し上げたように、ポイントはできるだけ具体的な方針を2年間で町民の皆さんと共有することだと思っているので、教育委員会としてはできるだけ丁寧に時間をかけて町民の皆さんと協議をしていきたいというふうに思います。

以上です。

町 長) ありがとうございます。それでは、虫賀教育総務課長ですけれども、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。清水さん、お願いします。

清水 委員) 教育を取り巻く環境、特に経済については今まで日本の学校で触れないできたように思います。しかし今後は経済も含めて教育を考えることが必要じゃないかと言われるようになりました。そのため今回の発表は勉強になりました。今後保護者の方にも今回の内容を伝えていきたいとおっしゃいましたが、私も同感です。では、どのように伝えていかれるのか。方法など、もう既にあり、お考えになっていらっしゃるならば教えてください。

教育総務課長) 今年のスクールミーティングで保護者の皆さんに、できれば学校運営協議会を中心に議論をさせてもらいたいというお話をしています。現在長柄地区だけですけれども、来年度葉山中学校区の4つの学校でも学校運営協議会が立ち上がると聞いておりますので、葉山全体の学校運営協議会の中で今のようなお話を段階的にさせていただきたいと思います。

清水 委員) そうすると、そこに参加された方限定になりますので、もっと広い方にもぜひ伝える方法を考えていただきたいです。いかがでしょうか。

教育総務課長) おっしゃるとおりだと思います。先ほど益田さんや水留さんから紹介があったホームページのような形がいいのか分かりませんが、いずれにしても、ある程度開かれた環境をつくるという方向で学校運営協議会を主催される方々ともご相談しながら、用意できればというふうに思います。

清水 委員) よろしくお願いいたします。

町 長) ほかにいかがでしょうか。下位委員、お願いします。

下位 委員) ご説明いただいた内容と少しずれるかもしれないんですけども、今、清水委員からもご質問ありました学校運営協議会が今後葉山中学校区にもでき、これ基本的に各学校に1つずつできるという考え方でいいんですか。それとも、学区ごとに、南郷中学区で一体となっているように。

地域学校協働活動推進員) 最初に南郷中のコミスクができて、今年度長柄小と合体して、合同になりました。

下位 委員) 南郷中学校と長柄小学校が2校で1個のコミュニティ・スクールの運営協議会があるという状態ですよね。葉山中学校区も同じ形になるか、学校の数が多いので、どうなるか分からないんですけど、学校運営協議会同士のつながりみたいなのは今後あり得そうなんですか。

教育総務課長) 葉山中学校区ではそれぞれ学校運営協議会が設置されるというふうに聞いてい

ます。ただ、合同を見据えて、合同開催のような工夫を令和5年度はされる。半分ぐらいは合同でできたらというようなことを考えられていて、なおかつ、令和6年度には長柄地区のような形になることも目指されている。ただ、1中3小という事情があって、それぞれ小学校、例えば上山口小学校の規模の問題とか、特別な事情もありますので、長柄のようにスムーズにいくかは少し、多分協議をされながら判断されると思っています。

下位委員) ありがとうございます。それはそれでまた学校同士が話し合っ決めていくことになると思うんですけど、最終的に、全部の学校が学校運営協議会を持ったときに、ぜひ南郷中学校地区と葉山中学校地区の何か交流みたいな機会をもっていたきたいなと思います。

教育総務課長) 現状とすると、小中一貫教育推進会議というのを設置していて、校長先生方の交流、意見交換を中心とした会議体があるので、そこをベースにしながら、今、下位委員が言われたようなところに関して必要な措置を考えてみたいと思っています。

下位委員) よろしくお祈いします。

町長) ほかにいかがでしょうか。小峰委員、お祈いします。

小峰委員) 大変、膨大な資料を分かりやすく、ああ、こういうこともこれから考えなきゃいけないんだということを改めて見直すことができ、大変すばらしい資料だなと思いました。ありがとうございます。

一番最初のところにある、“楽校づくり”の進め方～学び舎編のところにある、令和5年度で今回できる学校施設の在り方検討会、検討委員会の設置がなされるわけですけど、今、虫賀課長の頭の中にあるという言い方おかしいかもしれませんけども、例えばどういうようなことが委員会のほうから議題として出されるのでしょうか。どんな学校がいいですかってぼんと出すわけじゃないと思うのですが、例えばこんなこと、こんなことについて検討していただきたいという、腹案というか、あったら、差し支えない範囲で教えていただきたいんですけども。

教育総務課長) まず、在り方検討会のミッションとしては、やはり令和7年1月までに再整備の方針を示すというのが町全体、教育委員会の目標ですので、その方針に関してご検討頂く事になるかと思っています。それに当たって、町民の皆さんがどんなことを考えられているという情報は先ほどご説明した学校運営協議会を中心に収集したいと考えています。学校運営協議会で議論するだけでなく、長柄中学校区と葉山中学校区のバランスも見てくださいながら、全体を議論するのが在り方検討会になると思います。ですので、全体をグリップしていただきながら検討してい

ただくのが在り方検討会で、在り方検討会が主に活動していただくのは令和6年度が中心になってくるかもしれません。令和5年度はどちらかという町民の方を中心に夢を語っていただく時間にすべきだろうなど。そうでないと、町が有識者と一方的につくった整備方針というふうになりかねないので、そこは少し丁寧に進めたいなというふうに思います。

小峰委員) 続いて。じゃあ、令和5年度は夢を語るという段階であれば、皆さんがイメージしてる学校というか、こうだったらいいな、例えば葉山小学校のように中廊下で仕切られる教室ではなく、もっとオープンになった教室にしたいとか、低学年と高学年で校舎を分けるとかというような、そういうふうに、もう本当に自由にフラットに話し合ってくださいことでスタートするというふうに思ってよろしいんですか。

教育総務課長) スタートはそれでいいと思っています。昨日行った長柄でも、長柄小学校の階段というのは地元の方にとって大変ネックだそうです。なので、階段のない学校にしたいんだという理想があるならば、そういう理想を語って行って、それが方針レベルに高められるかどうかはまた別の問題で、やはり当初は皆さんが何を考えているか、それをオープンにさせていただいて、集約し、皆さんと一緒に考えられる状況をつくるのが大切であると考えています。

町長) ほか、いかがでしょうか。鈴木委員、お願いします。

鈴木委員) これ虫賀課長が今言われたんだけど、学区の問題ね。できるだけ早く、方針を教育長と部長とも相談をして、というのはね、お兄ちゃん、お姉ちゃんは葉小に行って、今度入学しようと思った子は長柄に行かなきゃいけないという可能性がある。これは例外をつくるんだろうけども、ぎりぎりになってからこうですよというのは避けなきゃ駄目。基本的にはもうちょっと早くこういう方向でいきたいんだということを取り決めないと。そうしないと、家庭が困ってしまう場合が出てくるんじゃないかと心配しているのね。運動会とか催し物が違ってくる可能性があるんでね。そうすると、両方にお弁当を作らなきゃいけない、両方に動かなきゃいけないみたいな家庭が出てくる可能性があるんで、できるだけそれは避けてあげたい。賛成・反対は出てくるだろうけど、早めに方向性を出してアナウンスをしておかなきゃ駄目だよというふうに僕は思っているんで、お願いしておきたい。

教育総務課長) おっしゃるとおりだと思います。教育委員会とすると、令和7年1月までに方針を立てることを目指しますが、具体での例えば工事であるとか、学区みたいな話はそこから方針を実現するに克服すべき課題がどのくらい困難であるとか、

当然時間をかけて解決するという必要もあると思うので、令和7年度以降、どの時期に具体的に校舎をとか、学区をとというのは、令和6年の方針を決めた後、さらに一定の時間がかかると思います。令和6年方針を決めたから7年から構想づくりが始まって、計画、工事みたいな話ではないというふうな前提でご理解頂ければありがたいと思います。

鈴木委員) ただね、令和7年から南中と長柄の小・中一貫を基本的に始めようと思っているわけで。その時点で学区を変更しなくても大丈夫か。

教育総務課長) 学区の話、おっしゃるところはあります。ただ、校長先生方の中には、葉山町2中4小というスケールメリットを生かすならば、カリキュラムや目標に関してできるだけ同じような考え方を持つことによって学区のねじれを解消するという解決策もあるという話もあります。なので、そこは校長先生方との議論をもう少し進めた上で、どの方向へ課題を設定するか、今後の議論次第で考えていきたいなというふうに思います。

鈴木委員) ということは、今の状態の学区のまま、葉小から南中に行く生徒が出てもし方がないという考え。

教育総務課長) 現状は学校施設の大きさですね、教室の数であるとか、大きさの関係もあって、2年後、お子さんの数で考えると、学区をいじるという時期ではないと思います。できるだけ早い時期に学区の問題も検討はすべきだと思いますが、当面はやはり現状の校舎、現状の学区というのが現実的なラインなんじゃないかなと思っています。

鈴木委員) 非常に難しい判断。要するに、ご家庭がどう思うかの問題があるよね。こちら側の考えはこうだけでも、何でうちの子は長柄から小中一貫に、不安感じる親もいるんじゃないの。

教育総務課長) そこもおっしゃるとおりです。なので、今、校長先生方と話している小中一貫教育推進会議の中でも、学区のねじれとカリキュラムをどうするかの話と同時に話をしている最中というところです。なので、その辺りに関しては、現状具体を申し上げられる状況ではないですけど、もう1年ほど校長先生方と議論を進める中では、やはり一定の方向性みたいなのは持つべきだろうなというふうに思います。

鈴木委員) 大変難しい方程式だと思って、大変だろうと思うんだけどね、すごく大事な部分で、後々引っかかりが出る可能性があって、あまり今の状態生かし過ぎると、本当に形だけ南中と長柄が小中一貫やってるだけじゃないかという話になってしまうんでね。葉中のほうは少しずつれるんだろうと思うけど、何とか説いて家庭で

それを理解してもらわなきゃいけないという仕事があるわけですよ。それは当然濱名課長たちもフォローしなきゃいけない、教育長もそうだけど。そこをきちっとある程度方向性を出していかないと、何となくそういうふうになっちゃいましたというのが一番駄目。結論を出さないと。そこは頭の中に常に覚えておいてね。

町 長) その他なければ。

教 育 長) 少しコミスクも含めてお話をさせていただきます。

コミスクについては、本当にご苦勞もありながら、長柄と南郷と一緒にやっていたいていることは本当にありがたいことだなというふうに思っています。

県立の高等学校は、もう5年ぐらいになるんですかね、全校コミュニティ・スクールが設置されて、ただし、高校はご承知のとおりで、通学をされているところが全県区からですから、地域巻き込みというところ、非常になかなか難しいというところを抱えながら運営をしています。ただ、コミスクを湘南でやり始めたときに分かったことは、藤沢市にあり、近隣に、隣に中学校があり、すぐそばに小学校があり、さらにその関係でNPOで様々な活動されている方々がいらっしゃったりとかということで、今まで知らなかっただけで、知ろうとすると、地域にはたくさん学校に協力をしてあげたいんだという人たちが高校であってもいるということなんですよね。自分のお子さんが通っている高校ではないにもかかわらず、学校に関与をして、学校に通っている生徒さんたちとともに何かをして一体感を持ちたいんだとお考えの方は、意外と地域の中に実はいらっしゃるということがよく分かりました。

その中で、義務に関しては、まさしく自分のお子さんたち、あるいは隣のお子さんが通っているだとか、通っていたとか、非常に親近感のある学校がそばにある。さらに言うならば、そこは恐らくは、あってはならないですけど、防災拠点になっていくことも事実であるという観点からいくと、これは学校が悪いんですが、学校はいつの時点からか、学校を閉じてしまったんですよね。学校を開く、開くと言いつつ、いつの間にか学校は閉じる方向にどんどん進みました。

なぜ開けなくなったのかというところは、本当に様々な要因があって、先ほども少し話がありましたが、セキュアの問題も当然あります。誰でも入ってこれることで起きてしまうような要因、これも非常に大きな問題だったと思います。ただ、それは技術的な問題でどうとでもなるところが実際はあったはずなんです、そこには学校を管轄している、県で言うならば県の教育委員会はそこにお金をかけなかったという、それだけの話ですね。現状はそうではなくな

ってきているのも事実なので、セキュア関係は何とかなっていきましょう。

問題は、一旦閉じてしまって、なかなか近隣の学校に行こうというふうな意識を持たなくなってしまった。その困難をどうやって解決をしていくかというところがなかなか、目途もそうですし、きっかけをどこに持っていくか、なかなか分からなくなってしまったということが、これは小・中も含めておありになるんだと思います。

ですので、地域のところに学校がありながら、恐らく自分のお子さんが通ってる間、その学校に行くことも時折小学校の場合は多いでしょう。中学校になると少し減ると思います。その後、じゃあ、行くことがあるのかというと、恐らくないというのが多分実態なんでしょうね。運動会やってても、恐らく自分のお子さんがいるときには非常にそれを好ましく思って、楽しく音楽が流れて、みんながわいわいやっているのはすごくいいものだというふうな意識を持っているんですが、それが卒業してしまった、あるいは自分のご家庭と関係ないことになった瞬間から、それは嫌悪に変わっていってしまうという状況が恐らく何らかの形で生まれていっているんだと思います。やはりそれは学校が開いていないからですね。

学校に何らかの形で、先ほどマイスターの竹原さんなんか東山田で昔からやられているとおりで、東山田という地区自体が港北区の…都筑区かな。いずれにしても、あそこって、非常にどちらかという新しい新興住宅地ですよ。新興住宅地であるにもかかわらず、コミュニティ・スクールで野菜売ってるわけですよ。葉山で幾らでも売れそうじゃないですか。ねえ。もしかすると魚も売れるかもしれないし。地域ごとのところの人たちがやっていることって、いっぱい実はあるんだけど、それは残念ながら、学校というところの拠点とは全く別の形で動いている。本当は販売をしたり、そこに人が来てくれるということがどこかにないかなとって、葉山の人たちが探している部分がたくさんありますよね。でも、学校は開かないので、学校ではできない。

相変わらずそういう状況というのは、益田先生とか一生懸命ご苦労頂いていの中で、これから先にいろんなことが起きてくるんだと思いますけども、どうやって本当の意味での学校が地域の拠点となっていくのかという。これを簡単に言うと、楽しいというふうに、たまたまこれ今回のとこで虫賀さんが作ってくれたパワポのところでも、「楽校」は楽しいという字をわざと使っています。地域の方にとっても楽しいというんですかね、それが起きる学校でなければならぬ。そうじゃないと、学校が困ったときに本当に助けてくれないと思うん

ですよ。ですから、そこを何として、どうやっていくのかということは、非常に重要な話だなというふうに、コミスクに関してのところを聞きながら、もっと何かをしていかなきゃならない。そのときに住民の方々、地域の方々が何を考えているのか。もっと言うならば、ネガティブキャンペーンを張られると、たまったものじゃないんですが、どちらかというところではポジティブであって、オプティミスティックであるような地域の方がたくさんいるはずなので、そういう人たちをどうやって味方に引き込むのかということはすごく重要だと思います。

これは虫賀さんが話をしてくれた、楽しい学校をつくるという教育内容についても非常に大きな話であって、もっと言うならば、学校を再編していくときの考え方についても、虫賀さんがおっしゃったとおりで、学校運営協議会に関わってきてくださっている人たちがその中に、要するに学校を変えようよ、もう45年以上たって無理でしょうというのみんな分かっているわけですね。ですから、そこを何とかしていくための一つの、当然ロジックにもなり、それから原動力にもなってくる人たちがそこには存在しているんだろと。夢を語るについても、本気でそこに関わってくれる人じゃないと夢は語れないと思うんですよ。ですから、そのところを考えながら、教育の内容、それから環境面、ともにいい形で、今年度からというか、来年度スタートになるわけですが、いろんな形でですね、やはり葉山ならではの教育環境というものをよりつくっていけるといいのではないかと。

これは、まさしく学校は一つの生涯学習セクションであるというの、これもまた事実なんですね。ただ、今は開いていないので、生涯学習セクションは簡単に言うと、土・日に開放しているだけなんですね。でも、そうではないというのが本線だと思いますので、そこも含めて、文部科学省が大分前の段階で、生涯学習局を全ての部局のトップに据えたのは何でかというもともとの意義をね、もう一度考え直しながら、葉山としての考え方を整理し直して、町民の方々皆さんが分かってくれるようになると思います。

1つだけ、今後のところの周知の展開に関してですけれども、多分当然、もう水留さんとかそれから益田先生もよくお分かりだと思いますが、ホームページはわざわざ訪ねてきてくれない限り、誰も見ないんですよ。ここに大きな問題があって、どうやってプッシュをして見てもらうかというところはやっぱり物を考えていかないと、作りました、でも、結果的には一定の人間たちだけが見てくれる。それは広がっていかないというのがホームページの限界です。どうやってプッシュ方法で、プッシュをする、つまり届けてあげること

をどうやっていくかは、少し皆さんとまた考えながら周知をしていく必要があるかなというふうに思って聞いておりました。非常に夢のある、葉山の将来の教育を語っていただいたので、ありがたいと思っております。

私からは以上です。

町 長) ありがとうございます。

私からは、本当に今日は虫賀さんと水留さん、益田さん、非常にすばらしいプレゼンテーション頂きましたので、状況もよく分かりましたし、理解が進んだところですよ。また、このようなプレゼンテーションを今まで皆さんお話あったように、これから多くの方に見ていただき、知っていただけることが非常に大事なことだと思いますので、すごく心強い機会を頂きました。本当にどうもありがとうございました。

私からも、もうとかく教育に関しましては、今日ちょっと先生のお話があまり出てこなかったもので、今後は先生との関係についてもですね、いろいろお話を聞ければなと思いますけれども、やはり教育の専門家がちゃんと学校にはたくさんいらっしゃる。そこに、そこに我々がどう関与するかだと思うんですね。とかく誰でも教育者になり得るものに対しては、私はそうじゃないということをはっきり、一方で発信しなければいけないと思うんです。学校の先生方、校長先生を中心に、あるものに我々がサポートをしていく、どこまで出ていくのか、どこまで出過ぎないようにするのか。しかし一方で、知ってもらった上で皆さんが話し合うといろんな声が出てくるので、どのようにそれを交通整理して、しっかり学校のために、それはつまり子どもたちのためになるので、その大義をぶらさずにいけるのかということが、我々も含めて、政治のほうも問われていると思いますから、ぜひたくさん情報を頂きながらですね、共に本当にひもといていくということをやらなければいけない、これからとても大事な期間に入っていきますので、総合教育会議のみならず、いろんな機関を通じてですね、情報連携をぜひやりたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

それでは、次第の協議事項につきましては以上となります。

(その他)

町 長) 次、その他でございますけれども、委員の皆さん、ほかにごございますでしょうか。よろしいですか。

1点私のほうから、令和7年1月1日の、先ほど虫賀さんのプレゼンテーシ

ョンにありました、葉山の町制が施行されて100周年、とても大きな節目を迎えます。本件についてですね、町としても、町をまさにこの学校のように楽しんでいただく機会にしてもらいたいということを今考えておりました、職員さんにまずはいろんな情報を集めてもらっております。いろんな100周年に向けたアイデアを出していただいております。それを令和5年度ぐらいにかけて実際に実行をして、行動をして、皆さんで楽しむ機会を設けて、7年の1月1日を皮切りに、最後の式典などですね、100周年を重く受け止めた機会を設けた上で、終了というふうになるのかなというふうに考えております。ですので、その間、学校をはじめですね、教育機関等でもですね、その100周年を、教える、伝える、考える、その機会にしていただけたら大変ありがたいなと思いますし、学校もぜひ協力をしていただいて、子どもたちにこれからを考える機会としてですね、持っていただけることも大変ありがたいと思います。

重ね重ねですけども、私たちはそこに何かできることがあれば、100周年に向けた資料であったりとか、私たちの何か力をもってですね、学校を応援することはできますので、ぜひ大きな節目の機会を迎えるということだけご承知おき頂いてですね、ここに何かアイデアがあれば、ぜひ頂ければというふうに思います。よろしくお願ひいたします。

その他に関して私のほうから以上でございます。皆さんよろしいでしょうか。

それでは、本日の協議事項は以上となりました。それでは、閉会となりますので、事務局のほうにお返しいたします。

教育部長) それでは、以上をもちまして、令和4年度第2回葉山町総合教育会議を閉会いたします。

次回の日程等は決まり次第ご連絡いたします。

時刻は15時32分です。どうも皆様ありがとうございました。